

こくりにゅうだよ



大阪府立池田高等学校 2年 小笠原 あずみ

「9月号ということでお月見する猫を描きました。」



今後のイベント情報

※場所の記載がないものはとよなか国際交流センターで開催します。



日本語交流活動ボランティア養成講座

第1回 9月28日(土) 10:00~15:00

第2回 10月5日(土) 12:30~16:30

第3回 10月12日(土) 10:00~15:00

外国人の現状を知り、ボランティア活動での大事な視点を学ぶ。

対象:全回参加可能で、講座終了後ボランティアとして活動できる人

(活動曜日は月曜午前、木曜午後、金曜午前、日曜午前のいずれか)

定員:各活動5名程度、20名(申込先着順)

参加費:全回あわせて1,000円

申込:9月2日(月)から来館・電話受付。保育は9月17日(火)までに要申込。

(保育料無料。首のすわった0歳から未就学児対象。)

公開シンポジウム・人生100年時代

だれとどう生きていきますか

～外国人×介護労働×地域×家族～

10月5日(土) 14:00~16:30

講演を聞き、参加者同士で今後の豊中を考える。

講師:郭辰雄さん(コリアNGOセンター 代表理事)

大塚陽子さん(立命館大学 教授)

定員:80名(申込先着順)

参加費:無料

場所:すてっぷホール(エトレ豊中5階)

申込:男女共同参画推進センターすてっぷ(06-6844-

9706)へ申込。電話・来館・WEB受付。

7月19日(金)開催

来てなっク！まるわかりセミナー ～多文化共生編～



今年の4月から外国人労働者の受入拡大が始まりましたが、実際のところはどうなっているのか、豊中市ではどういったことが起きているのか…そういった疑問や質問に応える形で進めた本セミナー、当日は36名の参加がありました。

事務局長の山野上が○×クイズ形式で、外国人を取り巻く日本及び豊中の状況、この4月以降の動きやとよなか国際交流センターの取組の紹介など、全部で14問の出題に合わせて多文化共生についてのお話をしました。

参加者の感想からは「自分の身の回りでも外国人が増えている状況を知って驚いた」「外国人の高齢化についても考えていかな」といけな」などのほか、改めて「自分にどんなことができるか」を考えた方も多かったようです。

「うちでもセミナーをしてみたい、話を聞いてみたい」という方、ぜひご連絡ください。

あなたもチャレンジ!

○×クイズに正解できるかな?



問題) 豊中市で暮らす外国人の出身は50か国よりも多い。○か×か?

答え) ○

2019年7月の時点で、約90か国、5,700人の外国人が暮らしています。この5年間で約1,000人増えましたが、特にベトナムやネパールなど、アジア出身の人が増えています。これからますますアジアとのつながり、交流が大事になりますね。

7月20日(土)開催

～平和と共存のためのおまつり地球一周クラブ～ チョア チョア コリア

当日は17名のこどもたちが集まりました。

まずは写真や動画を使って韓国文化クイズ。こどもたちが興味のある食べ物やK-POP等も出題され盛り上がりしました。次に、ハングルで名札を作ったり、単語クイズをしたり、ボールを受け取った人がハングルで自己紹介をするゲームをしたり…とハングルに親しみを持つことができるプログラムが続きました。最後に、削った氷の上に沢山のフルーツ、小さい餅、小豆、きなこをトッピングした定番かき氷「パッピンス」を作り、とても美味しくいただきました。

講師のパクヨンスさんが準備した様々な楽しい体験を通して、こどもたちは韓国をとても身近に感じる事ができたようです。(協会職員・大庭みゆき)



フルーツをテーマにしたハングルクイズをする講師のパクヨンスさん



冷たくてやさしい甘さのパッピンス(かき氷)。おかわり続出でした。

★こどもたちの感想の一部を紹介★

「クイズやゲームがとてもたのしかったです。」

「かんこくがだいすきになりました。」

「家でもパッピンスを作ってみます。」

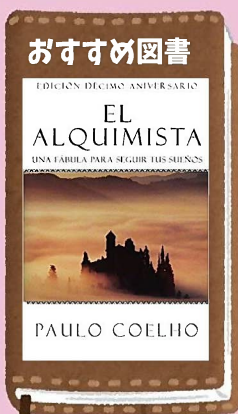
「自分の名前がハングルできれいに書いてうれしかった。」

감사합니다 (ありがとう) 」



講師に教えてもらいながら自分の名前をハングルで書いてみました!

『El Alquimista (邦訳: アルケミスト 夢を旅した少年)』 (Paulo Coelho 著)



1988年に出版されたこの小説は、現在67言語で翻訳され、150の国で販売されています。

主人公のサンチャゴは、夜な夜な『自分がエジプトのピラミッドで金を見つける』という夢を見ます。その夢を信じて、サンチャゴが実際にエジプトに向かうお話です。旅の途中で様々な人に出会い、人生で大切なことを学んでいきます。

自分の夢を『生活のため』という理由であきらめる人が多いけれど、自分が本当にやりたいことは、やってみるべきかもしれません。自分の心の声を聴き、自分があきらめなければ味方は必ず現れるのだと思いました。

2016年には映画化もされた小説です。みなさんにぜひ読んでほしいです。

(多言語相談サービス事業スペイン語スタッフ・滝本クラウドア)



日本語版の表紙

今回は、とよなか国際交流協会インターンシップをしている、竹尾さんにお話を伺いました。

はじめまして。竹尾尚哉と申します。私は、関西学院大学大学院・人間福祉研究科の博士課程前期課程1年生です。5月からインターン生として、こども事業をメインに関わらせてもらいながら学ばせていただいています。

私は大学2年生だった2016年に起こった熊本地震がきっかけで、日本で暮らす外国人が日本社会で直面する問題について関心を持ちました。それから私の通う大学で、留学生向けに防災イベントや外国にルーツを持つこどもたちの学習支援ボランティアに参加してきました。

国流でのインターンでは、日曜日のこども母語、学習支援『サンプルイス』、『わかものたまりば』に参加しています。それぞれの活動に参加する中で、職員の方々やボランティアのこども

や若者一人一人を尊重した関わり方が、安心できる居場所になっていると感じました。また、どの事業もミーティングやイベント、懇親会などあり、ボランティアにとって職員の方々とのコミュニケーションがとりやすく活動しやすい環境があります。国流の理念のベースにある「人権尊重」が活動の中で実践されていることが分かりました。

今回のインターンの経験を活かし、外国にルーツを持つこどもたちと関わりながらこどもたちを取り巻く環境を変えるために、外国にルーツを持つこどもの支援における地域連携モデルを構築したいです。



とよなか国際交流協会
インターン生
竹尾 尚哉さん

イモチョモ コラム | モジモ通信

第4回 ドイツ映画『僕たちは希望という名の列車に乗った』 (原題: Das schweigende Klassenzimmer=静かな教室)

ファンボカンチャ
皇甫康子

2018年2月号に最終回を迎えた連載「なんじゃ・カンジャ・言わせてもらえば」の執筆者、皇甫康子さんのコラムです。皇甫さんの想いとメッセージがイモチョモ（あれこれ）詰まったコラムをどうぞ。

2015年7月、はじめてベルリンを訪問したのだが、圧巻だったのは壁だった。

高さ最大5メートルのコンクリートの壁が120キロメートルもあり、西ドイツを囲んでいたという緊張感を、残存する壁を見ただけでも感じる事ができた。圧巻だったのは、ナチス政権の非行の数々が「テロのトポグラフィー」としてパネルや写真で展示してあったことだ。そんなことを思い出しながら京都の出町座で観たのがこの映画だった。

1961年から1989年までベルリン市内に存在した壁が建設される前夜、1956年の東ドイツの高校に通う2人の青年は、祖父の墓参りの帰りに西ベルリンの映画館でハンガリーの民衆蜂起を伝えるニュース映像を見る。ソ連から弾圧され、死者まで出ても自由を求め闘うハンガリー市民に共感した2人は、クラスメイトに呼びかけて授業中に2分間の黙祷をする。

ソ連軍が駐留する東ドイツではそんな行為すらも社会主義国家への反逆とみなされ、人民教育相が首謀者の捜査を行う。仲間を密告して自分の生活を守るのか、信念を貫いて大学進学を諦めるのか、高校生たちは人生を左右する重大な選択を迫られる。映画に登場する、ナチスドイツの拷問を受けた教育相やナチスドイツに寝返って処刑されてしまった赤軍兵士、友達を密告した市議員、1953年の政府に抗議のストライキをした鉄鋼労働者など、高校生の親たちにも戦争やその後の東ドイツで刻印されたそれぞれの傷があった。親は子どもたちを守るために、密告を強要したり、知らないふりをすると懇願したりする。納得しない子どもに、西ベルリンに逃げろと言う母親の言葉が辛い。

戦後、4国分割管理となったドイツは住んでいるところが東側か西側かで、思想信条に関わらず、すべてが分断されてしまった。そして、1989年の壁の崩壊。自由を求めて闘ってきた東側の人たちは、30年を経過した統一ドイツで「こんなはずではなかった」と落胆していることが多いと聞く。映画の中の東ドイツ時代の肉体労働者は厳しい労働であっても、暮らし向きは良い。体制に抗議すると、職場を奪われたり、仲間を裏切れと強要されたりする状況はどんな体制でも存在する。旧西側に劣等感を抱いている旧東ドイツでは、移民排斥感情が吹き荒れているという。

現在も分断国家のままなのが、朝鮮半島だ。ドイツの状況から目が離せなくなる。映画の若者たちの決然とした態度に心打たれ、涙が流れる。どんな状況でも人を裏切らない若者たちの姿に、自分もそうでありたいと願いながら宵山の京都を歩いた。

【イベント告知】 公開シンポジウム・人生100年時代 **だれとどう生きてますか** ～外国人×介護労働×地域×家族～

すてっぷ（とよなか男女共同参画推進センター）と当センターが共催で実施します。

政府は改定入管法により、今後5年間で最大34万人の外国人労働者を受け入れるとしています。特に介護労働分野では受入れ見込み数が多いとされています。しかし、介護をめぐる労働環境の処遇改善や、いまだに女性が家庭内の主たる介護の担い手となっていることなど、様々な課題があります。また近年、単身世帯や働く女性の増加など、家族の形は多様化しています。

私たち一人ひとりが地域社会でどう生きていくのか、隣人としての外国人住民とどのように共生していくのか、講師のお話や地域の情報をもとに考えてみませんか。（協会職員・山本房代）

【開催概要】

日時：10月5日(土)14:00～16:30

講師：郭辰雄さん

(コリアNGOセンター・代表理事)

大塚陽子さん(立命館大学教授)

定員：80名(申込先着順)

参加費：無料

場所：すてっぷホール(エトレ豊中5階)

申込：すてっぷ (06-6844-9706)

へ申込。電話・来県・WEB受付。

(本シンポジウムは表紙掲載「日本語交流活動ボランティア養成講座」を兼ねています。)

2019

9月の事業開催カレンダー

赤字はイベントです。イベントの詳細は表紙下部をご覧くださいか、
とよなか国際交流協会へお問い合わせください。

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
26 もっど	27	28 休館日	29 木ひろ にこにこ 千里	30 金あさ にこにこ 相談 学楽多	31	01 貸室利用抽選会 目的利用：～12月末まで 一般利用：～11月末まで
02 もっど	03 おやこ 学楽多 ※	04 休館日	05 木ひろ にこにこ 千里	06 金あさ にこにこ 相談 学楽多	07 第5回とよなか 国際交流フェスタ 10:00～16:00	08 がちゃ 母語 サンプル 若者
09 もっど	10 おやこ 学楽多	11 休館日	12 木ひろ にこにこ 千里	13 金あさ にこにこ 相談 学楽多	14 ピックアップ 韓国・朝鮮のことばと あそびのついで	15 がちゃ サンプル 若者
16 敬老の日 ※にほんごはありません	17 おやこ 学楽多	18 休館日	19 木ひろ にこにこ 千里	20 金あさ にこにこ 相談 学楽多	21	22 がちゃ 母語 サンプル 若者
23 秋分の日 ※にほんごはありません	24 おやこ 学楽多	25 休館日	26 木ひろ にこにこ 千里	27 金あさ にこにこ 相談 学楽多	28 日本語交流活動 ボランティア養成講座 ①10:00～12:00 ②13:00～15:00	29 がちゃ サンプル 若者
30 もっど	01	※3日の『おやこでにほんご』の活動については、活動場所によって開催の有無が異なります。 詳しくはとよなか国際交流協会へお問い合わせください。				

センターが主催する定例事業

- 月曜日…もっどもっどつかえるにほんご 10:00～12:00
※ひらがな・かたかなが書ける人が対象
- 火曜日…おやこでにほんご 10:00～12:00
(千里・岡町・庄内の各図書館で実施)
- 子ども学習広場「学楽多」 16:30～21:00
(庄内ガダバで実施)
- 木曜日…とよなかにほんご・木ひろ 13:30～15:20
- 多文化こども保育にこにこ 13:30～15:30
- 千里にほんご 10:00～11:30
(千里文化センターコラボで実施)
- 金曜日…とよなかにほんご・金あさ 10:30～12:00
- 多文化こども保育にこにこ 10:30～12:00
- 外国人のための多言語相談 11:00～16:00
- 子ども学習広場「学楽多」 17:00～19:00
- 日曜日…にちょうがちゃがちゃだん 10:00～12:00
- こども母語※第2.4日曜日のみ 10:00～12:00
- 学習支援サンプレイス 13:00～15:00
- 若者のたまりば 17:00～20:00

場所の記載のないものはとよなか国際交流センターで実施しています。
定例事業の参加についてはとよなか国際交流協会にお問い合わせください。

今月のピックアップ

「韓国・朝鮮のことばとあそびのついで」

韓国・朝鮮にルーツのあるこどもたちが毎月集まり、民族講師から自身のルーツのことばや文字、遊びなどを学んでいます。

「ハギハッキョ(夏期学校)」と「ハギハッキョキャンプ」は夏休み期間に行われます。豊中市では全国の中でも先駆けて「ハギハッキョ」を実施し、今年で40回目を迎えました。7月23日の「ハギハッキョ40周年記念行事」では、卒業生やオモニ(お母さん)、アボジ(お父さん)、関わってきた先生たちも集い、交流を深めました。



※豊中市在日外国人教育推進協議会の先生が中心となり運営しています。

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第125号(2019年9月号)

発行元・問い合わせ:(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F
(阪急宝塚線豊中駅すぐ)

開館時間:9:00～21:30(貸室受付は20:00まで、水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atoms@a.zaq.jp WEB:http://www.a-atoms.info/



SNSも随時更新中!

多言語情報も
配信しています!



「とよなか国際交流センター」で検索!